

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年10月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】化学工業が大幅に上昇

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数で電気機械が前月比で低下したものの、化学工業、はん用機械、輸送機械等が上昇した。災害の影響があった企業は、現在は平常の状態に戻っており、引き続き好調な景況感が窺える。しかし、一部では、米中の貿易戦争の影響からか、受注の鈍化等の懸念を示す企業もある。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、全体で前月比増加したものの、消費の縮小や販売先の減少に加え、人手不足や原料、燃料の価格高騰等の影響から、全体的に厳しい状況が継続している。

【設備投資】一部には投資姿勢に慎重な企業も見られる

○設備投資は、工場新設や新規設備による増産対応や人手不足を補うための合理化や省力化に対して意欲的な企業が多く見られる一方で、貿易戦争の先行きが見通せない中で、設備投資に慎重になっている企業もある。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、ドラッグストアが引き続き好調なのに加え、家電大型専門店やホームセンターに前月の反動増が見られた。消費増税に対しては、売上減少等の懸念はあるものの、多くの企業では、現時点でその対応策について考えられていない。

【観光】宿泊客数、観光客数ともに前年同月比を下回った

○観光は、1ヶ月を通し降雨日が多いなど天候に恵まれず、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、業績好調な企業にとっては問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、小規模企業では長引く人手不足や収益圧迫等を背景に、依然として厳しい状況にある。また、今後は消費増税に伴う影響を注視する必要がある。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足の状態が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、業種を問わず、人手不足が慢性化している。求人の募集を継続的に行っているものの、引き続き反応が薄い状態が続いている。